

第 2 章

奄美市の現状及び課題整理

第2章 奄美市の現状及び課題整理

1 奄美市の現状

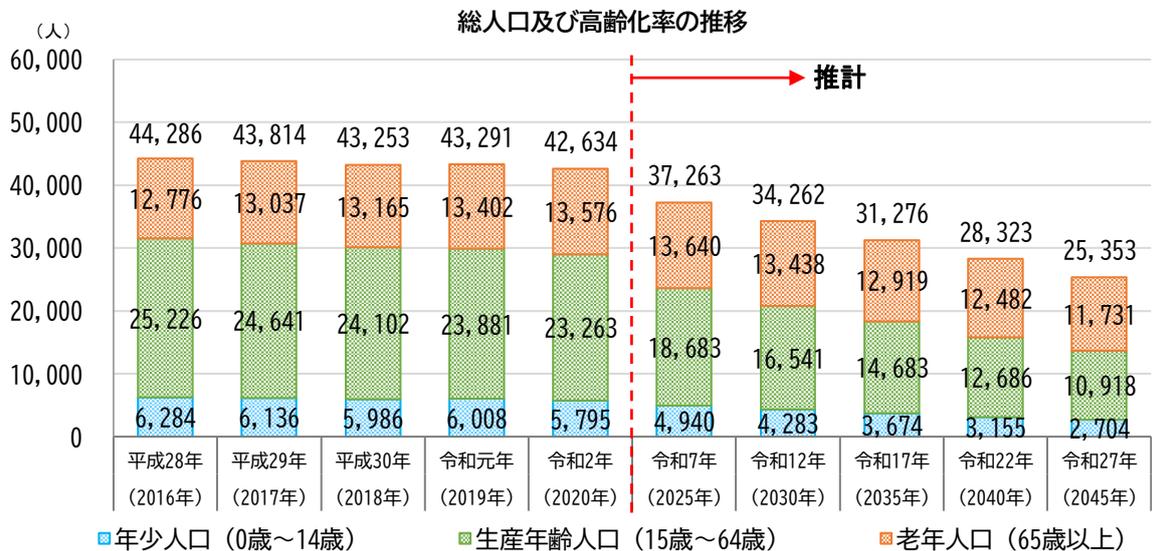
(1) 総人口の推移と将来推計

本市の総人口は、令和2年9月末現在、42,634人となっています。令和27年には、総人口が25,353人まで減少することが推計されています。

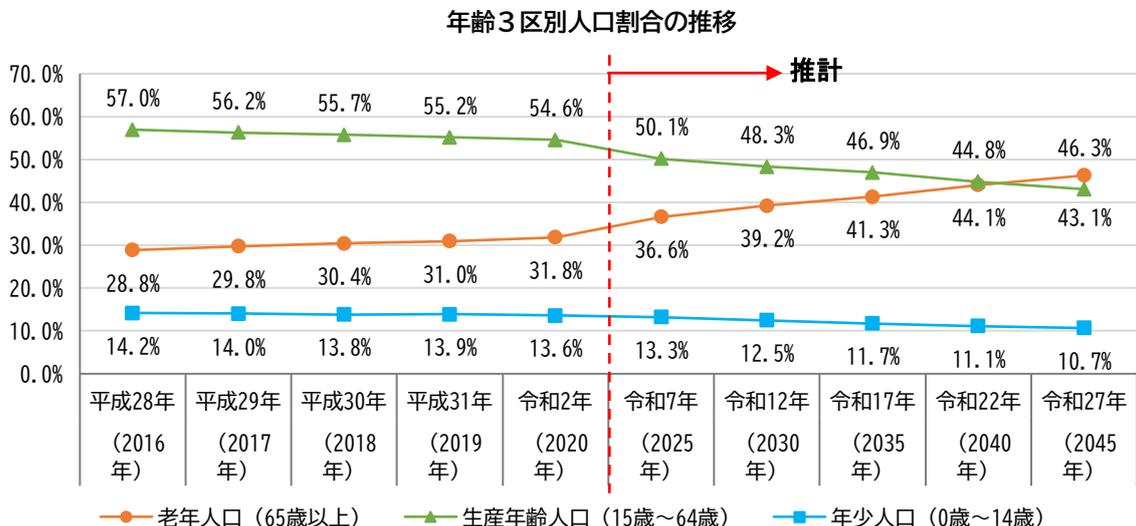
年齢区分別でみると、年少人口、生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にあります。

推計では、今後も総人口、年少人口、生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向が見込まれますが、令和7年以降は老年人口も減少する見込みとなっています。

年齢3区分別人口割合をみると、令和27年には老年人口が生産年齢人口を逆転し、高齢化率は46.3%になると予測されています。



※小数点以下の処理の場合、年齢不詳者の数により各項目の和と総人口が一致しない場合があります。
 (資料：平成28年～令和2年「住民基本台帳」9月末、令和7年以降「地域別将来推計人口」国立社会保障人口問題研究所)



(2) 世帯の状況

本市の一般世帯数は、平成27年で19,580世帯となり、減少傾向にあります。

また、親族のみの世帯、非親族を含む世帯についても減少傾向にあるなか、単独世帯については増加傾向にあります。

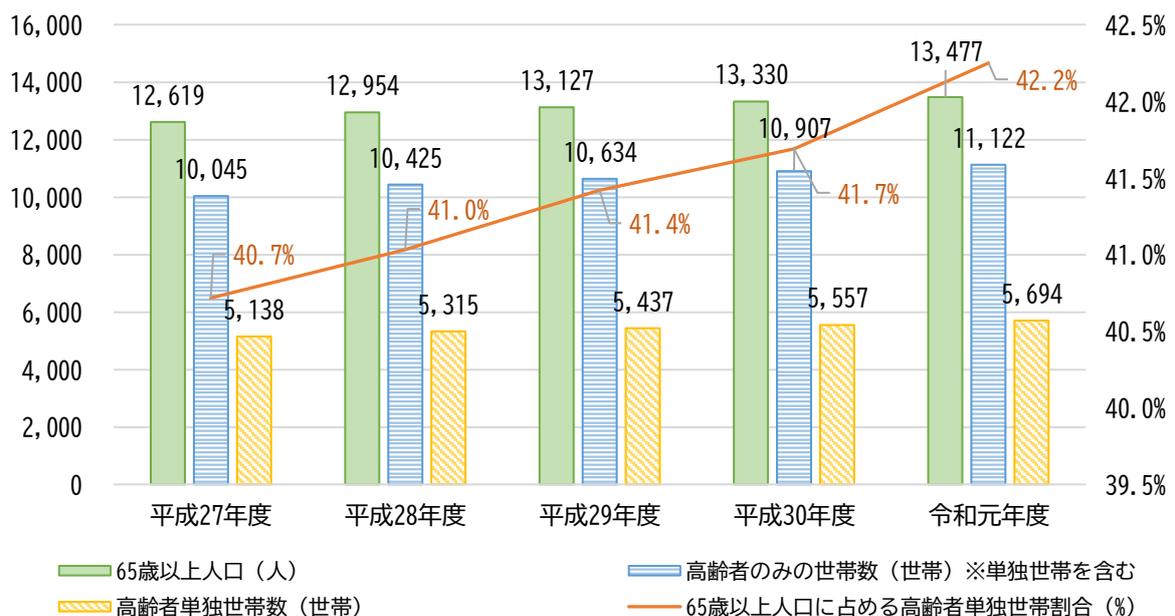
一般世帯の状況

(世帯)

	平成22年	平成27年
総数(一般世帯)	20,062	19,580
A 親族のみの世帯	12,805	11,977
1 核家族世帯	11,562	10,942
(1) 夫婦のみの世帯	4,309	4,332
(2) 夫婦と子供から成る世帯	4,823	4,294
(3) 男親と子供から成る世帯	316	316
(4) 女親と子供から成る世帯	2,114	2,000
2 核家族以外の世帯	1,243	1,035
B 非親族を含む世帯	149	139
C 単独世帯	7,107	7,463
世帯の家族類型「不詳」	1	1

(資料：国勢調査)

高齢者世帯の推移



(3) 地区別の人口動向

本市における地域支え合い体制づくりの区域に合わせた名瀬地区6圏域(金久、伊津部、奄美、上方、下方、古見方)、住用、笠利という合計8圏域を日常生活圏域として設定しました。

圏域別における人口の推移については、上方圏域、下方圏域は増加傾向で推移していますが、その他の圏域は減少傾向で推移しています。

高齢化率については、全ての圏域において増加傾向で推移しています。

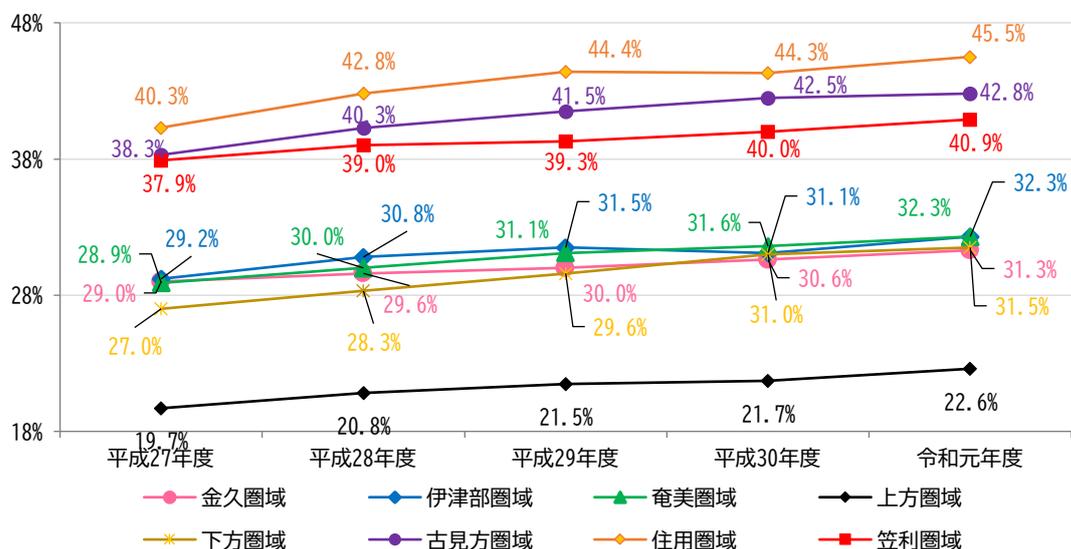
地区別の人口動向

(人)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金久圏域	人口	7,528	7,434	7,325	7,298	7,161
	高齢化率	29.0%	29.6%	30.0%	30.6%	31.3%
伊津部圏域	人口	4,845	4,739	4,670	4,713	4,622
	高齢化率	29.2%	30.8%	31.5%	31.1%	32.3%
奄美圏域	人口	8,558	8,418	8,216	8,092	7,913
	高齢化率	28.9%	30.0%	31.1%	31.6%	32.3%
上方圏域	人口	8,000	8,009	7,963	8,259	8,281
	高齢化率	19.7%	20.8%	21.5%	21.7%	22.6%
下方圏域	人口	6,446	6,839	6,377	6,339	6,380
	高齢化率	27.0%	28.3%	29.6%	31.0%	31.5%
古見方圏域	人口	1,325	1,264	1,234	1,213	1,180
	高齢化率	38.3%	40.3%	41.5%	42.5%	42.8%
住用圏域	人口	1,326	1,298	1,268	1,265	1,235
	高齢化率	40.3%	42.8%	44.4%	44.3%	45.5%
笠利圏域	人口	5,770	5,694	5,660	5,591	5,482
	高齢化率	37.9%	39.0%	39.3%	40.0%	40.9%

(資料：住民基本台帳 各年度3月末)

日常生活圏域別の高齢化率の推移



(4) 児童等の状況

① 出生数・合計特殊出生率の推移

本市の出生数は、平成25年の389人から平成29年341人と5年間で48人(12%)減少しています。1人の女性が生涯に生む子どもの数を表す合計特殊出生率(15～49歳の女性の年齢別出生率を合計したものは、平成25年に1.95であったものが平成29年には1.91と減少していますが、国や県と比較すると高い水準を保っています。

しかし、人口を維持するのに必要とされる2.08は下回っており、少子化傾向が続いています。

出生数・合計特殊出生率の推移

(奄美市)

区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
出生数(人)	389	394	358	352	341
合計特殊出生率	1.95	2.06	1.82	1.88	1.91

(鹿児島県)

区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
出生数(人)	14,637	14,236	14,125	13,688	13,209
合計特殊出生率	1.63	1.62	1.70	1.68	1.69

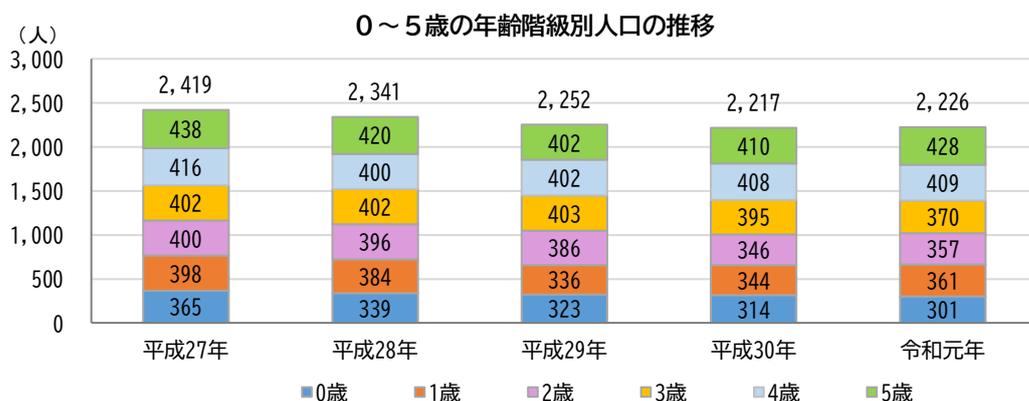
(全国)

区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
出生数(人)	1,029,817	1,003,609	1,005,721	977,242	946,146
合計特殊出生率	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43

資料：鹿児島県人口動態調査より算出

② 0～5歳の年齢階級別人口の推移

0～5歳の年齢階級別人口の推移は平成30年まで減少傾向にありましたが、令和元年には2,226人と増加に転じています。なお、0歳の人口は一貫した減少傾向にあります。



(資料：住民基本台帳(各年4月1日))

③ 6歳未満の子どものいる一般世帯の推移

6歳未満の子どものいる一般世帯は、平成27年では1,748世帯で世帯人員は7,047人、世帯あたりの人員は4.0人となっています。

また、6歳未満の子どもの人員は2,342人で、世帯あたりの6歳未満人員は1.3人となっています。

6歳未満の子どものいる一般世帯の推移

(人、世帯)

区分	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
世帯人員	10,251	9,027	7,931	7,047
6歳未満子どもの人員	3,381	2,987	2,607	2,342
世帯数	2,468	2,238	1,935	1,748
世帯あたり人員	4.2	4.0	4.1	4.0
世帯あたりの6歳未満人員	1.4	1.3	1.3	1.3

(資料：国勢調査(各年))

④ ひとり親世帯の推移

本市におけるひとり親世帯は、平成27年では664世帯で世帯人員は1,750人、世帯あたり人員は2.6人となっています。

また、18歳未満のいるひとり親世帯数は622世帯で、18歳未満のいる世帯数に対するひとり親世帯の割合は15.0%であり、年々増加傾向にあります。

ひとり親世帯の推移

(人、世帯)

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
ひとり親世帯	784	751	712	664
ひとり親世帯人員	2,192	2,074	1,926	1,750
世帯あたり人員	2.8	2.8	2.7	2.6
18歳未満のいるひとり親世帯数	704	703	668	622
18歳未満のいる世帯数	6,150	5,386	4,692	4,134
18歳未満のいるひとり親世帯の割合	11.4%	13.1%	14.2%	15.0%

(資料：国勢調査(各年))

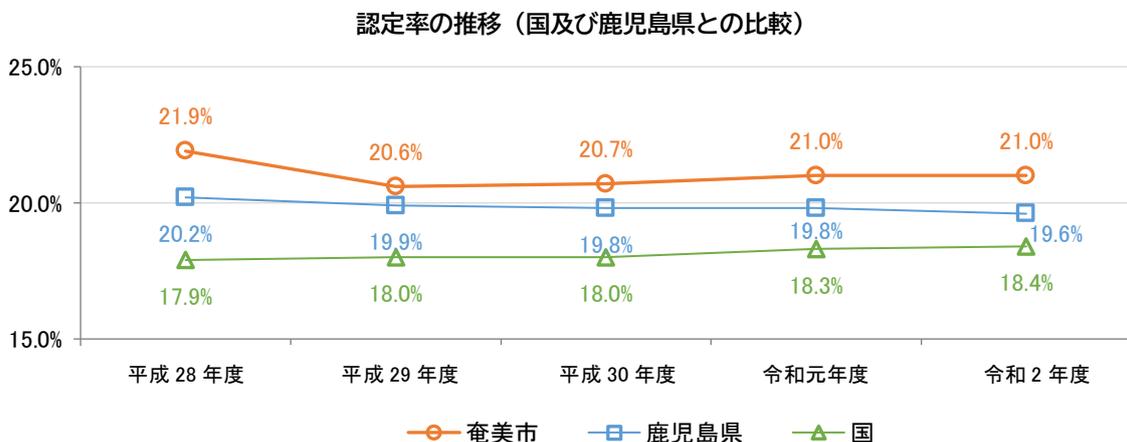
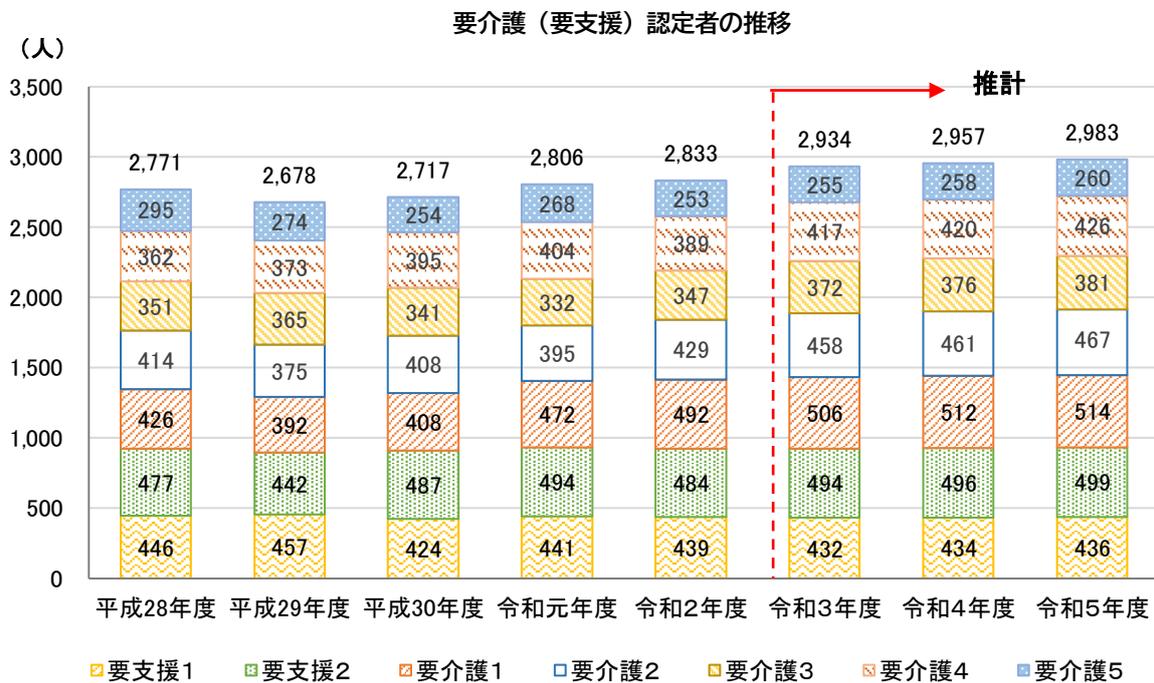
(5) 支援が必要とする方の状況

① 介護保険事業における要支援・要介護認定者の状況

本市の令和2年度における要介護（要支援）認定者の第1号被保険者と第2号被保険者の合計は2,833人となっており、そのうち要支援1及び要支援2は923人、要介護1から要介護5は1,910人となっています。

認定者数は、平成29年度以降は増加傾向で推移しており、介護度別では、要介護1、要介護2の軽度者が増加傾向で推移しています。

また、認定率は、令和2年度は21.0%となっており、鹿児島県、国より高い割合で推移しています。



②障害者手帳所持者の状況

本市の障害者手帳所持者数の推移をみると、平成30年度が3481人、令和2年度が3,494人で13人の増加（0.3%増）となっています。

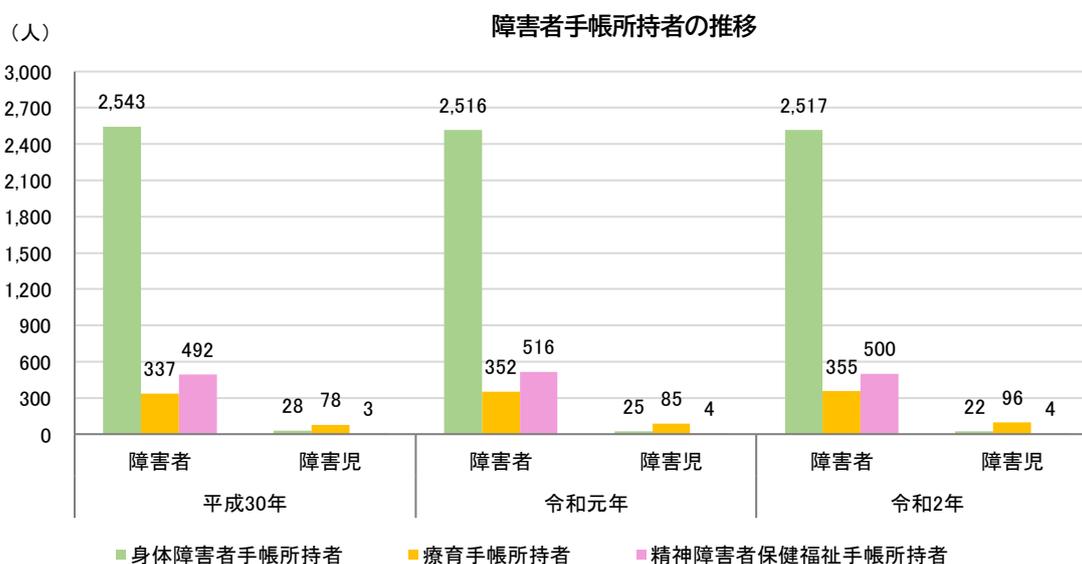
障害別にみると、身体障害者（身体障害者手帳所持者）の数が最も多く、年度別においては減少傾向が続いています。療育手帳所持者は増加傾向となっており、精神障害者（精神障害者保健福祉手帳所持者）の数は、増減を繰り返しています。

種類別障害者手帳所持者数の推移

(単位：人)

	平成30年度		令和元年度		令和2年度(10月末)	
	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児
身体障害者	2,543	28	2,516	25	2,517	22
知的障害者	337	78	352	85	355	96
精神障害者	492	3	516	4	500	4
合計	3,372	109	3,384	114	3,372	122
	3,481		3,498		3,494	

(資料：チャレンジド・プラン奄美 各年3月31日現在)



③生活保護世帯の状況

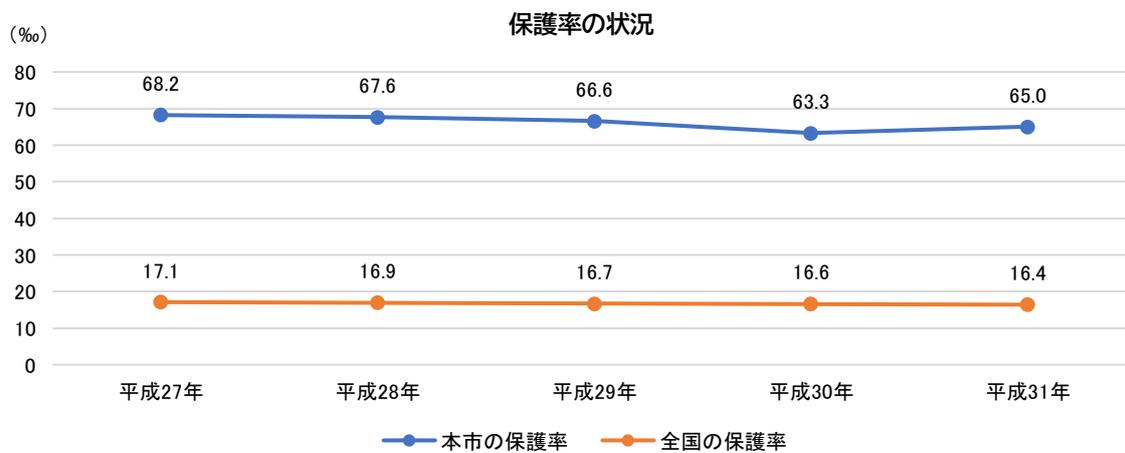
平成 31 年4月現在における生活保護世帯は月平均 2,095 世帯で、年々減少傾向で推移しています。

なお、保護率については、全国平均を大きく上回っている状況です。

生活保護世帯の状況

年 度	世 帯 数 (月平均)	人 員 (人) (月平均)	扶 助 金			本 市 の 全 国 の 保 護 率 保 護 率 (%) (%)	
			扶 助 額 年 額 (千 円)	1 人 当 り 月 平 均 (円)	1 世 帯 当 り 月 平 均 (円)		
平成27年	2,176	2,964	4,532,699	127,438	173,587	68.2	17.1
28	2,150	2,885	4,489,769	129,687	174,022	67.6	16.9
29	2,116	2,808	4,424,295	131,300	174,239	66.6	16.7
30	2,105	2,765	4,301,124	129,630	170,274	66.3	16.6
31	2,095	2,712	4,346,808	133,567	172,904	65.0	16.4

(資料：数字で見る奄美市 各年4月1日現在)



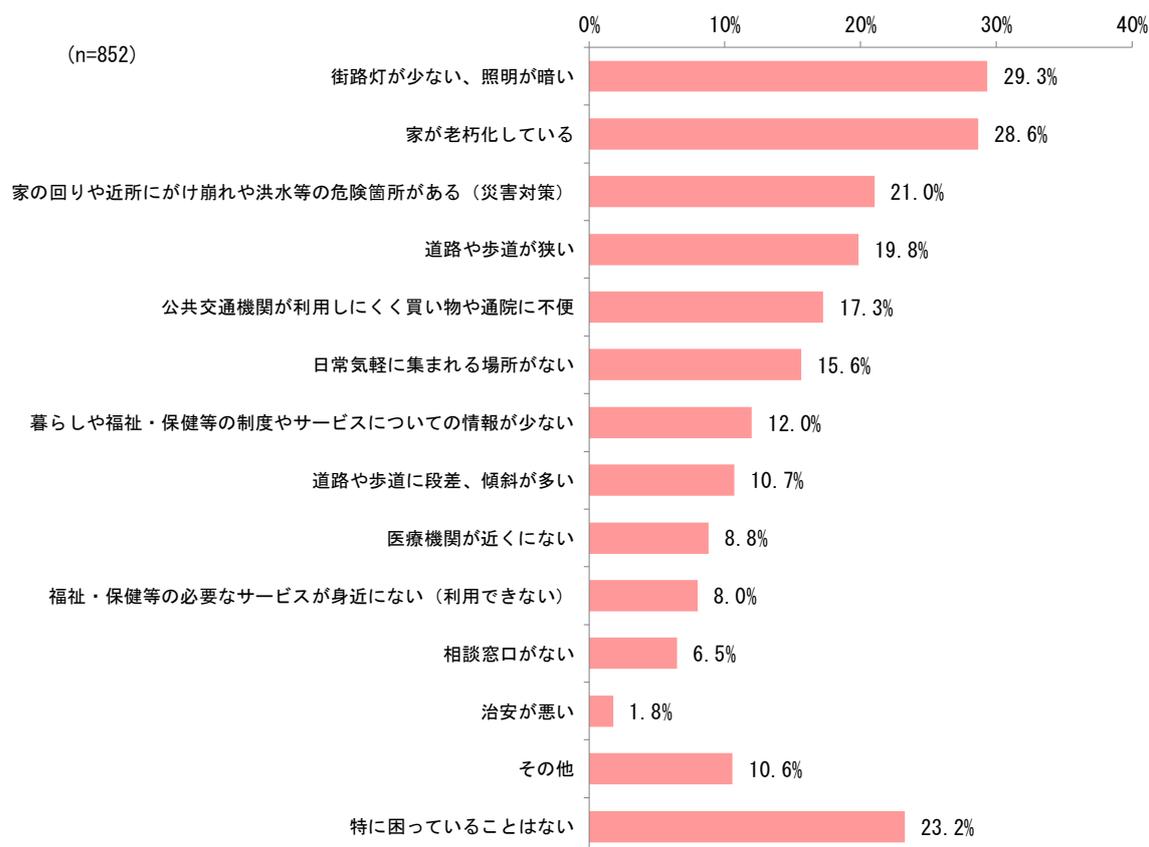
2 市民アンケート調査の結果

調査の概要

- ◆調査地域・・・奄美市全域
- ◆調査対象・・・18歳以上の奄美市民
- ◆調査期間・・・令和2年9月～10月
- ◆調査件数・・・2,000件
- ◆回収結果・・・852件（回収率42.6%）

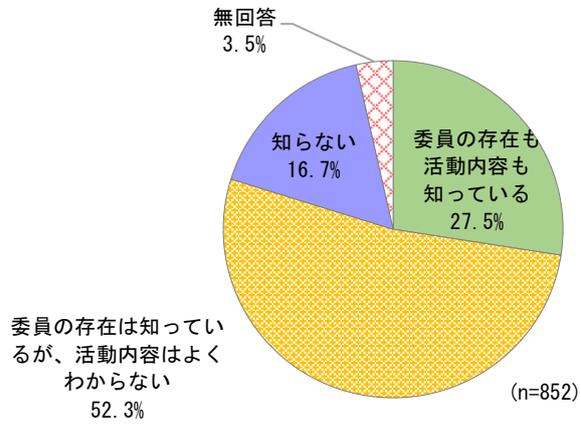
（1）現在地域で生活する上で困っていること

生活する上で困りごとについては、「街路灯が少ない、照明が暗い」が29.3%と最も多く、次いで「家が老朽化している」が28.6%、「特に困っていることはない」が23.2%となっています。



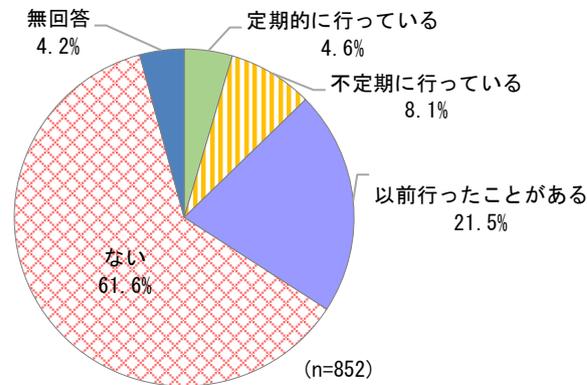
(2)「民生委員・児童委員」の認知度

民生委員・児童委員の認知度については、「委員の存在は知っているが、活動内容はよくわからない」が52.3%と最も多く、次いで「委員の存在も活動内容も知っている」が27.5%、「知らない」が16.7%となっています。

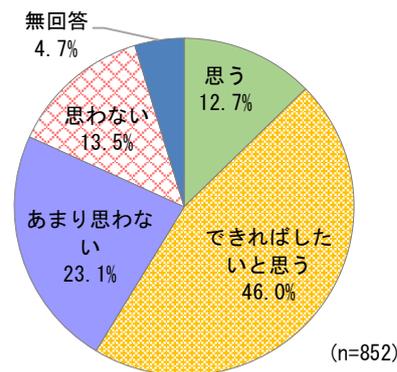


(4) 地域活動・ボランティア活動について

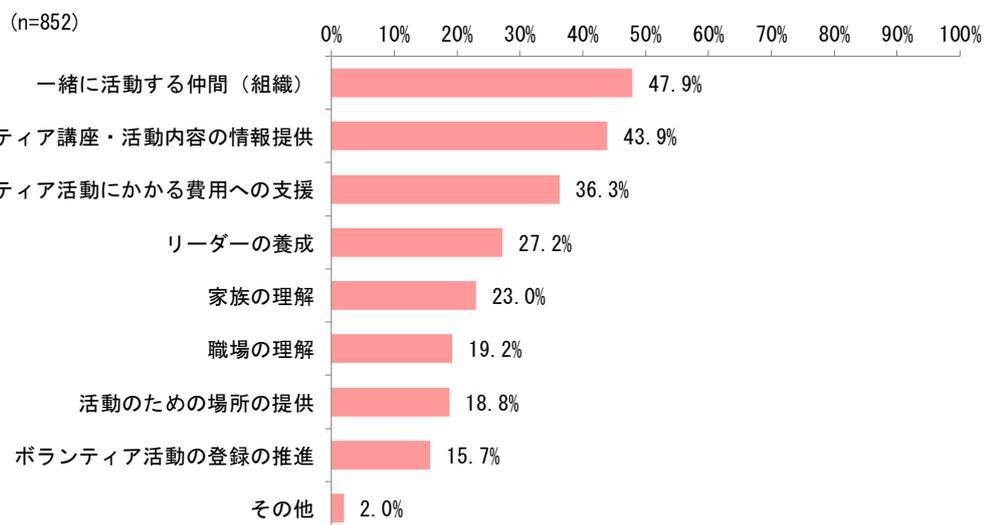
ボランティア活動については、「ない」が61.6%と最も多く、次いで「以前行ったことがある」が21.5%、「不定期に行っている」が8.1%となっています。



ボランティア活動を行ってみたいかについては、「できればしたいと思う」が46.0%と最も多く、次いで「あまり思わない」が23.1%、「思わない」が13.5%となっています。

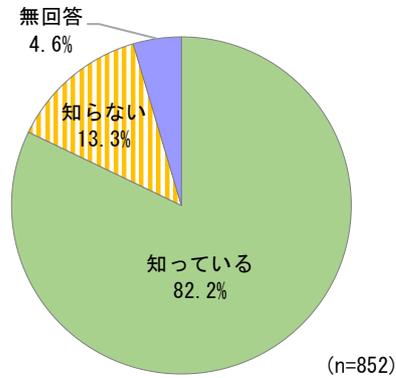


ボランティア活動を広めていくために必要と思うものについては、「一緒に活動する仲間（組織）」が47.9%と最も多く、次いで「ボランティア講座・活動内容の情報提供」が43.9%、「ボランティア活動にかかる費用への支援」が36.3%となっています。

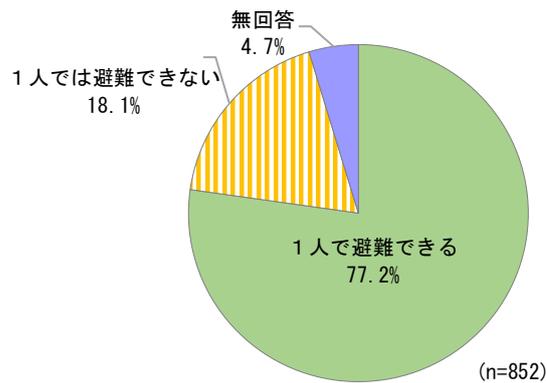


(5) 災害対策について

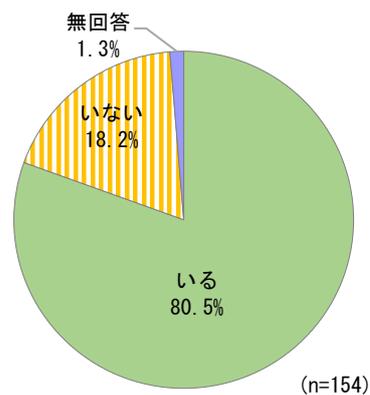
災害時の避難場所については、「知っている」が 82.2%、「知らない」が 13.3%となっています。



避難場所への自力避難の可否については、「1人で避難できる」が 77.2%、「1人では避難できない」が 18.1%となっています。

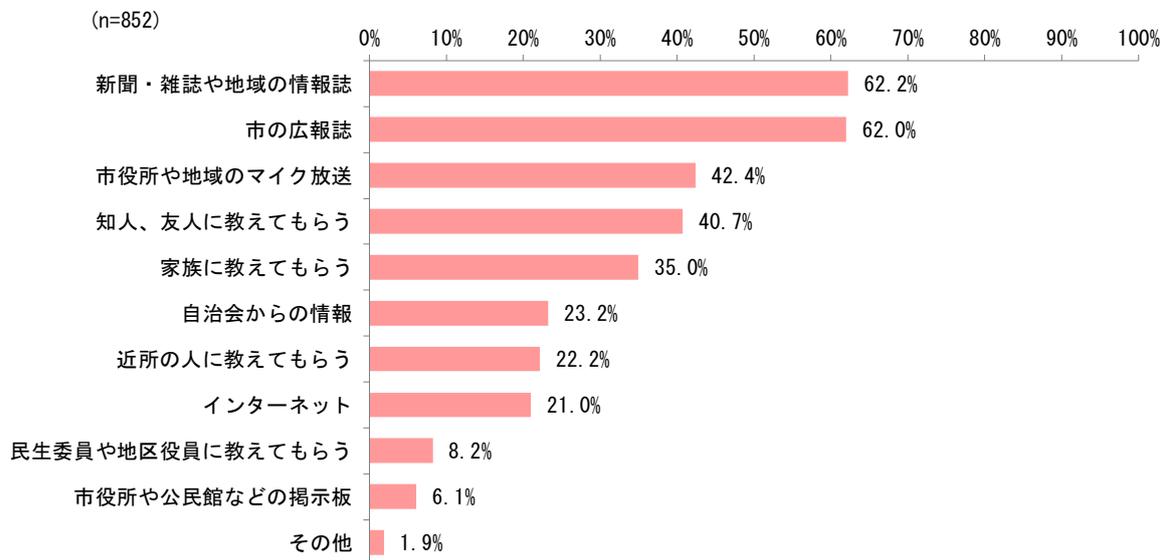


災害時の避難の際、近くに手助けを頼める人がいるかについては、「いる」が 80.5%、「いない」が 18.2%となっています。



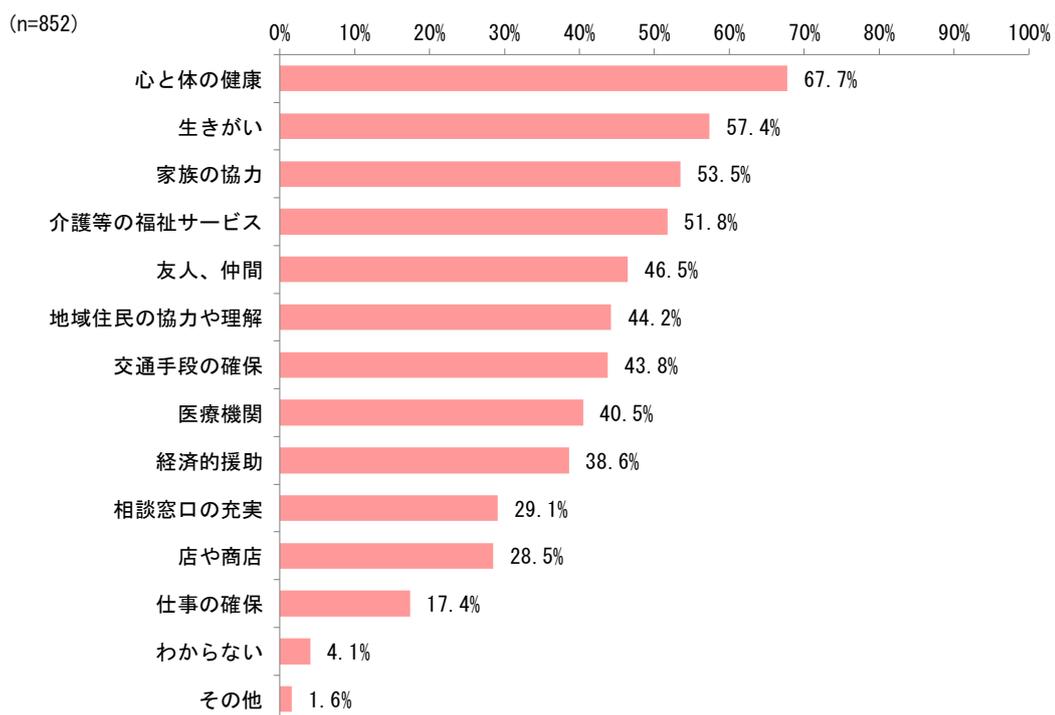
(6) 福祉サービスに関する情報の入手について

情報の入手方法については、「新聞・雑誌や地域の情報誌」が62.2%と最も多く、次いで「市の広報誌」が62.0%、「市役所や地域のマイク放送」が42.4%となっています。



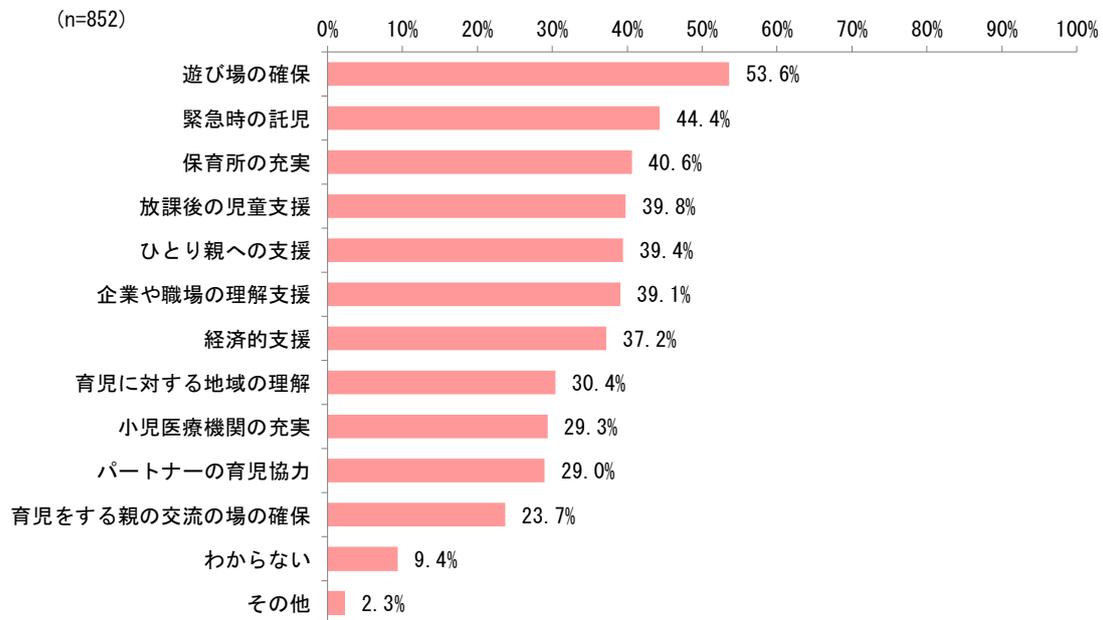
(7) 高齢者福祉について

高齢者が地域で生活する上で大切なことについては、「心と体の健康」が67.7%と最も多く、次いで「生きがい」が57.4%、「家族の協力」が53.5%となっています。



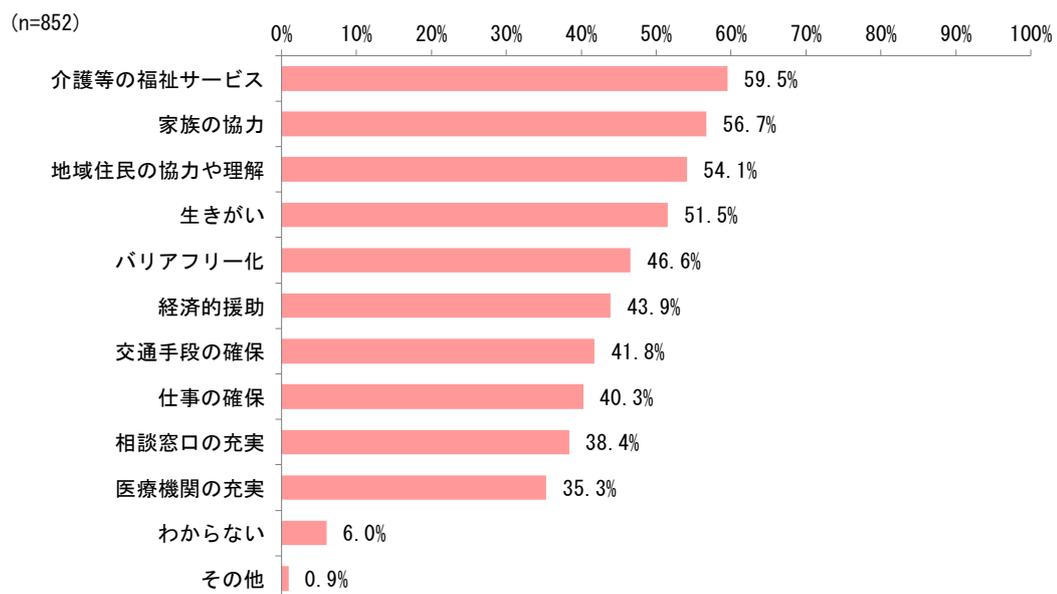
(8) 児童福祉（子育て）について

子育てしやすい地域づくりのために大切なことについては、「遊び場の確保」が53.6%と最も多く、次いで「緊急時の託児」が44.4%、「保育所の充実」がともに40.6%となっています。



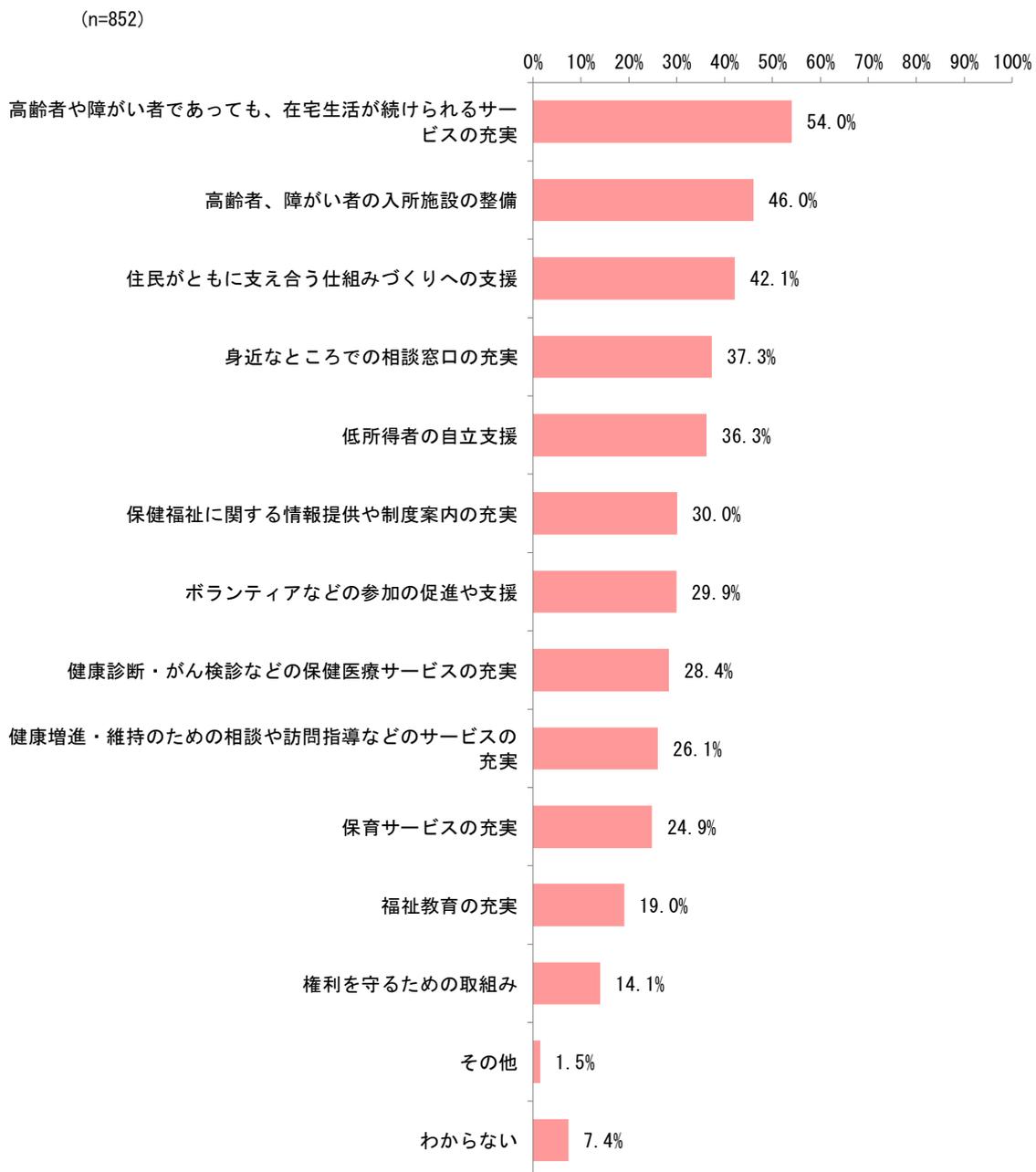
(9) 障害者福祉について

障害のある方が生活する上で大切なことについては、「介護等の福祉サービス」が59.5%と最も多く、次いで「家族の協力」が56.7%、「地域住民の協力や理解」が54.1%となっています。



(10) 奄美市の福祉のあり方について

市の福祉施策として特に必要だと思うことについては、「高齢者や障害者であっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」が54.0%と最も多く、次いで「高齢者、障害者の入所施設の整備」が46.0%、「住民がともに支え合う仕組みづくりへの支援」が42.1%となっています。



3 地域座談会の結果

(1) 金久地区

良いところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの見守りができている ・火災時など率先して避難の手伝いに動く人がいる ・ごみ捨ての手伝いをする人がいる ・祭り、敬老会、忘年会等の行事が30年続いている ・避難訓練等を地域で行っており、災害意識が高い ・自治会規模がコンパクトで、お互いの顔がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯がある ・害虫駆除を自治会で行っている ・2か月に1回班長会を行い、集まっている ・台風での避難時に、高齢者をみんなでお世話した ・防災組織がなくても、災害時に協力し合えた ・自主防災組織が充実したために、自治会の活性化に繋がっている
困っているところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、空き家が多い ・野良猫が多い ・長期で役員をしている人がおり、後に続く若い役員が育たない ・若い人が少ないので、長期で役員をやらざるを得ない ・行事への参加者が固定化している 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会場など集まる場所がない ・防災時などの資材を置く場所がない ・若い人の顔がわからない ・若い人がいないので、一度役員を受けるとずっとやらないといけないという不安がある ・高齢者は人と話をしたりして、人とつながっていたいと思う
行政に求めること	
<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線を設置してほしい ・老人福祉会館を避難所にしてほしい ・老人福祉会館への道のハブ対策をしてほしい ・長浜公園に続く階段にスロープを設置してほしい ・空き家などを上手く集会場として活用できるようにしてほしい、その際に補助金等を出してほしい ・住民の意見を拾うノウハウを教えてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・名瀬小学校裏のアカギを保存するならば、落ち葉対策もしてほしい ・ハード面の整備を補助金で支援してほしい ・住用の嘱託員制度は、月1回の会合で行政との連絡体制がしっかりとれていて良いと思うので、名瀬地区でもそのような体制をとれないか検討してほしい
自分たちにできること	
<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の整備・伐採を行う ・自主防災組織を作ろうとしている ・若い人に地域活動のアプローチをしていきたい ・若い人にも参加してもらうために知恵を絞らないといけない ・役割が偏らないように役割分担をして、若い方が参加しやすいようにしたい ・地域でお年寄りもテレビ電話などスマホを活用して見守りやつながりできるようにしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAに参加する親が多いので、PTAと合わせて地域のことをしていきたい ・子供を通して、その親も地域行事に参加してもらいたい ・高齢者が多いので、今いる人達を中心にできることを考える（防災など） ・速やかな情報伝達・共有 ・ごみの捨て方などを間違えた場合は、根気強く何回も教えて理解してもらおう ・新しくやってみたいことを考えていきたい

(2) 伊津部地区

良いところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド・ゴルフ大会を行っている ・地域住民がそれぞれの持ち場で美化活動を行っている ・健康づくり教室を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターを月1回借りて、体操教室を行っている、小さい子供連れの親子と触れ合う場となっている
困っているところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・年寄りが多い ・集会施設が足りない ・災害時の高齢者の避難が不安 ・民生委員不在の地区がある ・自治会がない地域がある、立ち上げが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動が難しくなっている（新型コロナウイルス感染症対策や詐欺を疑われるため） ・空き家が多い ・人が住んでいるが、建物が古く壊れかけている家屋ある
行政に求めること	
<ul style="list-style-type: none"> ・年寄りが集まれる場所が近くにあるとよい ・民生委員の不在地区があるので、後任を探してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会と支え合い協議体の地区割を統一してほしい ・行政協力員を探してほしい
自分たちにできること	
<ul style="list-style-type: none"> ・当番制で行なう火の用心の夜回り活動を再開する 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員不在地区となっている地区の民生委員が見つければ、もっと幅広く活動できる



(3) 奄美地区

良いところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・市街地にあり、学校・図書館・医療・介護施設などが多い ・地域行事への参加の義務感がなく楽である ・地域住民同士のゆるいつながりがよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・まつりや防災会などのイベントが成功している ・住宅の掲示板やエレベータを利用して情報共有をしている
困っているところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・住みやすい物件が少ない ・地域への思い入れがない ・大人も子供も関わる機会が少ない ・貧困者や障害者が孤立しやすい ・若い人はたくさんいるが、役員のなり手がおらず、班長を決めるのも困難、運営側が疲労している ・各種大会の地区選手を探すのが難しい ・自治会費の徴収が困難なところが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会がまた休会になるのではと焦りを感じる ・住民同士のつながりが希薄化 ・独居高齢者が多い ・子供たちの地域との関わりが少ない、自分のふるさとであると認識しづらい ・子供が学校以外で集まる習慣がない ・自治会がない地区がある ・台風・災害時の課題
行政に求めること	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動の財源の補助 	
自分たちにできること	
<ul style="list-style-type: none"> ・手伝える人の発掘 ・人のつながりをつくり、担い手を確保・育成する ・地域の広報誌づくり ・要援護者の把握 ・高齢者支援の組織、仕組みをつくる ・子供や高齢者の居場所づくり ・新川ふれあい館を子供からお年寄りまで、気軽に集える場所にしたい ・住民同士の目に見える関係づくりをすること ・継続して集まれる仕組みをつくる ・学校の関係性を超えたつながりを地域の中で呼びかけられたらいい ・8地区の特色を生かして交流できたらいい ・自治会の役割や負担を減らし、若者が参加しやすくする ・押しつけではない形で若者を地域の活動に参加してもらえるようにしたい ・子育て世代と子育てが終わった世代の交流があったらいい ・市民清掃など地域の行事に若い人が入りやすい雰囲気づくりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯数が少ない自治会は合併して活動したい ・奄美地区体育協会を利用して、ともに活動していくといいと思う ・奄美地区広域の自治会として市に認めてもらえば、新たな財源が確保できるかもしれない ・小学生から高校生まで、各学校に協力を得て、協議体の集まりに参加してもらい、奄美の現状を知ってもらう ・中高校生の力を活用 ・地区内に県立大島病院があるので、医師にふれあい館で講話などをしてもらい、人を集めるきっかけにする ・どのようなサービスがあったらいいか、地区に住む人に対してニーズ調査をする ・グラウンド・ゴルフ大会やカラオケ大会をしたい ・昼に地区を回って、独居高齢者の把握をしたい ・夏祭りに中高生が参加できるイベントをする ・奄美地区全体の文化祭のようなイベントができたらいい、楽しいことには自然と人が集まると思う ・ソーシャルコミュニティワーカーを置く

(4) 上方地区

良いところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティアを立ち上げた ・壮年団や子ども育成会など年代ごとの各種団体があり、情報の連携ができています。 ・町内会報を毎月つくって情報共有している 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団結力がある ・人口が増えており勢いがある ・資源ごみの分別指導をしている ・見守り隊をつくっている
困っているところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で助けてと言えない人の支援方法 ・地域活動に入る人、入らない人がはっきりしている（若い世代、マンション住民など） ・地域活動に参加しない人に、どのように関わりをもつべきか ・和光町単独で自治会を持っていないので、災害時など高齢者の対応が不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人部など地域活動を活性化させるためにどうしたらよいか ・8月踊りなど文化の保存・継承が難しい ・公園に遊具がない ・和光町は避難する場所がない ・和光町に消防車庫がない ・ごみ出しルールを守らない人がいる
行政に求めること	
<ul style="list-style-type: none"> ・数値化できないものを福祉施策に考えてほしい ・転入者へごみ出しルールを説明してほしい ・要支援者の情報を地域にも教えてほしい ・基地周辺整備事業の一環で、マイク放送受信機を各家庭に設置してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の体育館を大きくしてほしい ・自治会加入のPRをバスなどでしてほしい ・町内会そのものをもっと行政からアピールしてほしい ・敬老会のために高齢者の情報を教えてほしい
自分たちができること	
<ul style="list-style-type: none"> ・和光町で土地を探して、消防車庫・集会場の相談をしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ出し対策としてカメラを設置する



(5) 下方地区

良いところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統行事が引き継がれている ・顔見知りである ・地域のまとまりがある ・子供の見守りを地域の方に協力してもらっている ・挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りが盛んである ・防災組織がしっかりしている ・高齢者のごみ捨ての手伝い、声掛けができています ・移動販売車がくるから助かる
困っているところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に参加することへの義務感がある ・独居高齢者の把握ができていない ・新型コロナウイルス感染症対策により、集まる機会が少なく、地域の子供や親の顔を覚えられない ・高齢者宅を訪問しても出てきてくれない、警戒される、特に聴力が弱い方の対応に苦慮 ・高齢者の買い物不便 ・地域活動への参加者が減ってきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の緊急時の対応が不安 ・役員の担い手が減ってきている ・地域行事にいつも同じメンバーしか集まらない ・老人クラブに加入する人がいない、継続が難しくなっている ・町内会の規模が大き過ぎて、顔が見えない ・単身者の見守りなど町内会での議論ができていない部分がある
行政に求めること	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者宅の見守りなどについて、先進事例のアイデアなどを知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会役員の担い手、若い人の呼び込み方などを知りたい
自分たちにできること	
<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の方の見守りのために、顔を覚えてもらわないといけない ・下校時の子どもの防犯対策を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いに協力しながら地域を盛り上げていきたい ・老人クラブの継続について考えていきたい



(6) 古見方地区

良いところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・自然に囲まれていて空気がきれい ・毎朝輝く朝日が昇る集落である ・集落の人たちが協力的、近所付き合いがある ・住民が親切で親しみやすい ・住民一人ひとりが把握しやすい ・町内会行事、八月踊り、十五夜（びっこ）など伝統行事が継承されている ・納涼会が盛大に行われ、遠出ができない高齢者の楽しみの1つである 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆらおう会、健康体操などが行われている ・高齢者が自家用野菜を自分で作っている ・市民清掃日の全体作業が定期的に行われている ・奉仕作業への参加率が高い ・旧暦の日に、無縁仏の墓の清掃をしている ・水土里サークルの活動を小湊アプシ隊が行い、農水路の保全活動、地域の美化活動が行われている ・高齢者の見守り活動が行われている
困っているところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・空き家があり、草屋敷になっている家や危険家屋がある ・タラソ行きの無料バスが巡回しない ・老人福祉会館行きのバスが運行されていない ・高齢者が多く、災害時の身内への連絡が不安 ・避難場所である公民館は雨が降ると、道路が冠水し避難ができない ・崎原への裏道に土石流があり、裏道の利用ができない ・市民清掃活動の参加が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の草刈りができない ・人が減っていて、草刈りが追い付かない時がある ・お墓の横に大木があり倒れそうで危険 ・光ファイバーの工事が進んでいるが分からないことだらけ（メリットなど） ・八月踊りの練習や地域行事へ若い人たちが来ない ・伝統文化の継承が困難 ・一部の業者が山を切り開いているが、ほとんどの住民がその目的を知らない
行政に求めること	
<ul style="list-style-type: none"> ・農耕放棄の土地があるので、農業振興地域の解除等により、建売住宅や病院など民間の力を活用して、人口を増やす施策をしてほしい ・小湊小学校を将来も継続できるように教育行政をしてほしい ・空き家を活用する施策をしてほしい ・高齢者向けの体操や物作りなどを月1回無料で教えてほしい ・崎原の桜通りを名所にするために、期間限定でライトアップやトイレの整備をしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・県道沿いの草刈りの回数をふやしてほしい ・農業者住宅をつくってほしい ・バスを利用する方は、高齢者や免許返納した方が多いので、バスを利用しやすいようにバス停に屋根付きベンチを設置してほしい ・市役所までバスが乗り換えなしで行けるように運行してほしい ・道路ミラーの設置 ・避難場所がほしい ・雨が降ると冠水する道路があるため工事をしてほしい
自分たちにできること	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民清掃への参加者を増やす ・健康体操、ゆらおう会に参加する ・グラウンド・ゴルフでの体力づくりと親睦を深める ・地域の伝統行事、八月踊りを守っていく ・集まる機会が少ないので、集会場でできるカラオケやお茶会などがあれば楽しめるかも 	<ul style="list-style-type: none"> ・これ以上集落が荒れないように協力して、きれいな町内・街並みを維持していく ・農道などの草刈りをする ・公園の美化活動 ・展望台の整備 ・高齢者の見守り活動を継続する

(7) 住用地区

良いところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・結の精神が残っている ・人が少ないから団結力がある ・人が少ないから、地域の人のがよく見える ・移動販売車が週に2回くる ・ほとんどの人が顔見知りである ・集落単位の動きをまとめることがしやすい ・人が優しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣同士を理解し合っている ・嘱託員会等の組織がある ・有償ボランティアが上手く運用できている ・自然の遊びができる ・自然が身近にあり、クロウサギやマングローブが見られる
困っているところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・人口が少ない ・子供や若者が少ない ・人が少ないため行事がやりにくい ・空き家が多くなっている ・施設が少なく選択肢がない ・お店が遠い ・病院が一つしかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪い ・バスの運行時間が少ない ・様々なサービスが住用地区まで届かない ・おせっかいお婆さんがいなくなった ・個人情報に厳しすぎて、個人の家に介入しづらい ・独居の人が急に体調が悪くなった時が心配
行政に求めること	
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅をつくってほしい ・意見箱をおいて住民の意見を聞いてほしい ・台風、津波、救急時などの訓練をしてほしい ・ゆらい場所を集落ごとにつくってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・15人くらいが乗られるバスを走らせてほしい ・事業を立ち上げる際、運営費等の費用をだしてほしい。
自分たちにできること	
<ul style="list-style-type: none"> ・お店をつくりたい ・誰でも集まれるゆらいどころを作りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り体制づくりをしていきたい



(8) 笠利地区

良いところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんからお年寄りまでよく知っている ・地域の中で見守りや助け合いができています ・移動販売車が来てくれるようになった ・移動販売の待合場所が、お互いの状況確認や情報収集の場となっている ・子供たちが元気である 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が地域とのつながりを大切にしてくれる ・地域と行政のつながりができています ・婦人会、こども会等のまとまりができています ・屋仁まんてん市場を通して、地域（お客さん）との細かいつながりができています
困っているところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・介護など家庭の中のことまで分かりづらい ・買い物できる店が少ない、買い物が不便 ・集まりに参加していない人をどのように参加させるか苦慮している ・行事の際に人を集めるのに苦労している ・老人クラブの会長のなり手がいないため、活動を中止している地区がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の一人暮らしが増えてきている ・リーダーシップのある若い世代がいない ・船の放置などごみ問題 ・国道沿いにゴミ屋敷があって危険な家屋がある ・車いすを載せられる車がない、介護タクシーでは運賃が高つく ・老々介護が増えてきた
行政に求めること	
<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売車のカバーエリアを増やしてもらった ・地域の困りごとを幅広く相談できる窓口がほしい ・3支所どこでもワンストップで相談・対応できるようにしてほしい ・地域の活動に補助金を出してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりのため、グラウンド・ゴルフ場の利用料を安くしたり、プールを無料、バスの巡回などをしてほしい ・集落内にバスを通してほしい ・認知症検査の助成や、予防のための講話をしてほしい
自分たちにできること	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の見守りをしていきたい、この問題に若い人が参加してもらえるように考えていきたい ・集落ごとに見守り隊を結成したい、それにより民生委員の負担軽減につなげたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティアを立ち上げ、移動支援などを行いたい ・集落内のゲートボール場を整備し、ゲートボール大会を開催したい



4 課題のまとめ

課題1 地域コミュニティの維持と強化

- 子育て世帯における核家族化、共働き世帯が増加する中、教育・保育環境の充実やワーク・ライフ・バランスの推進など、安心して産み、育てることができる環境づくりが重要な課題となっています。
- アンケート調査から、「近所づきあいや助け合いなどの近隣関係が良好でない(p18)」とする割合は1割強となり、地域のつながりの希薄化が伺えます。その背景として人口減少や働き方等ライフスタイルの変化、一人ひとりの地域との付き合い方等の考え方の変化が考えられます。
- 本市が優先して取り組むべき施策については「住民がともに支え合う仕組みづくりへの支援(p23)」が4割を超えており、隣近所を含む地域の人々と交流を深め、お互いに助けあえるような関係性づくりが必要です。
- 本市では、自治会や小学校区を単位とした地域活動が盛んで、各地区が地域の特色を活かした地域づくりが展開されています。しかし、地域活動に積極的に参加していない方もアンケート結果から伺え、その傾向は若い世代において特に顕著になっています。価値観の変化やライフスタイルの多様化が進む状況ではありますが、地域のつながりの大切さを再認識し、それぞれの生活のあり方にも配慮した地域活動を展開していくことが必要です。
- 高齢者のひとり暮らし世帯が増加傾向にあります。アンケート調査結果では、「最期を1人で迎えるのではないかと不安である」及び「身近に頼れる人がおらず1人きりである」と回答した人は、2割弱となっています。
ひとり暮らしの方は地域との接点が希薄で、孤立しやすい傾向にある一方で、「自分ができることであれば地域活動に参加したい」といった意向もみられます。
- 今後もひとり暮らし世帯の増加が予想されるなか、各世帯の状況の把握や、普段はなかなか地域とつながりを持っていない方のための機会づくりなど、自治会等や小学校区を単位とした活動をより一層充実していくことが大事です。

課題2 地域の福祉を支える担い手の確保と育成

- アンケート調査から、3割を超える方がボランティア活動に参加したことがあると回答しており、これをさらに増やすために、本市が優先して取り組むべき施策については「ボランティアなどの参加の促進や支援(p23)」が約3割となっています。特に人口が少なく、高齢化率が高い「古見方圏域」「住用圏域」では、地域の担い手の確保は喫緊の課題といえます。また、子育て世代においては、今後さらに多様化が進む教育・保育ニーズに対応するため、未就学児童の教育・保育のさらなる質の向上を図るとともに、地域特性を活かした子育て環境の整備を行う必要があります。

(次ページへ)

- 少子高齢化を背景とした人口減少が急速に進行する中、福祉に対するニーズの高まりに加え、支援面での人手不足といった問題が懸念されています。
- 普段からの支え合い・助け合いの重要性の周知啓発に加え、福祉教育の推進、地域福祉の啓発を行い、奄美市における福祉の基盤づくりを進め、市民及び地域の多様な主体が地域の担い手となれるよう取り組みを推進していくことが必要です。

課題 3 多様化・複雑化するニーズに対応できる仕組みづくり

- 特別な支援を必要とする子どもだけではなく、すべての子どもの健やかな育ちが保障される支援体制の充実が求められています。
- アンケート調査において、市が優先して取り組むべき施策としては、「高齢者や障害者であっても、在宅生活が続けられるサービスの充実（p23）」が最も高くなっており、特に高齢化が進んでいる圏域では、高齢者世帯への生活支援等が一層重要になると考えられます。また、地域を取り巻く福祉課題は、多様化・複雑化しており、高齢者への支援だけでなく、子ども、障害のある人、生活困窮者に対する支援や、権利擁護、虐待防止、自殺対策、制度の狭間の課題への対応等が求められており、分野がまたがる複雑な課題への対応も必要となっています。
- 要介護認定者や障害者手帳所持者の増加、核家族化の進行や世帯人員の減少・地域コミュニティの希薄化など、支援を必要とする人が増加しています。多様化・複雑化する課題に対し、迅速かつきめ細やかに対応できるよう、包括的な支援体制の強化（ネットワークの強化やコーディネート機能の充実）が必要です。
- これまで様々な媒体を活用しながら情報発信を行ってきましたが、必要な人に必要な情報が届いていないという声も伺えることから、情報を受けとる側に立った発信の工夫が必要です。

課題4 安全・安心な暮らしを支える支援の充実

- アンケート調査において、「災害時の避難場所を知らない (p20)」割合は1割強となり、「災害発生時に避難場所まで1人で避難できない (p20)」は約2割となっています。また、「災害時に避難するときに、近くに手助けを頼める人がいない(p20)」も約2割となっており、住み慣れたまちで安全に暮らすことのできる支援の充実がより一層求められています。
- 本市では自主防災組織を設置していますが、防災対策活動については地域において差がみられる状況です。緊急の事態にいつでも対応できるよう、自主防災組織の活動と平日頃からの準備について啓発が必要となっています。
- 安全・安心なまちを誰もが望んでいて、バリアフリー環境の整備をはじめ、防災・防犯の対策について、市民の関心は高い状況です。災害時における避難行動要支援者の安全な避難や安否確認等の対応のほか、防災・防犯の意識の向上等、なお一層の取組が必要です。